

contents

DV・子どもの虐待の早期発見に向けて…………… 1	今月のブックガイド…………… 9
もっと知りたい男子の性⑥…………… 6	JASEインフォメーション…………… 10
性教育の歴史を尋ねる②④…………… 8	

## DV・子どもの虐待の早期発見に向けて

聖路加国際大学准教授 ウィメンズヘルス・助産学  
助産師

片岡 弥恵子

### ■ はじめに

「家族」は、本来、愛情を基盤に、育み、癒しの場であると言える。しかし、家族はその親密さと外部からは閉ざされた空間がゆえに、暴力や虐待が起こりやすく、そして慢性化またはエスカレートするという現実がある。信田<sup>1)</sup>は、家族はパワーゲーム、つまり支配と権力に満ちていて、それこそが家族であると述べている。

家族の中で起こる暴力は、関係性の中で強い者から弱い者への支配とコントロールの現れであり、たまたまカッとなって暴力をふるったという文脈ではない。支配やコントロールの関係性が脈々とあるからこそ、暴力や虐待は長期化し慢性的になりやすく、解決が容易ではない。そして、家族の中で弱者となりやすいのは、特に子ども、女性、高齢者である。子ども、女性、高齢者への虐待は、別物として議論されることも多い

が、暴力が起こる構造としては類似している。暴力をふるわれ恐怖によって支配されている子どもや女性の安全や健康を取り戻すためには、慢性化する前のできるだけ早い時期に、外部からの支援を得られるかどうかは鍵となる。

そのためには、家族内の暴力や虐待の早期発見が欠かせない。外からは見えにくい家族内の虐待を早期に発見するために、医療の場でのスクリーニングが世界各地で試行されている。なかでも周産期医療は、DVや子どもの虐待のスクリーニングをするために適した場であると考えられている。

WHOのガイドライン<sup>2)</sup>では、特に妊婦健診はDVのスクリーニングをする機会であると示されている。妊婦健診は、DVに対して支援を求める女性のみならず、通常なら医療者と接点がない被害女性にもアプローチすることができる。妊娠期から育児期は、女性と子どもの2つの命に関わる可能性もあるため、スクリーニングを推奨すべきと考えられている。

本稿では、DV および子どもの虐待の早期発見に向けて、医療での取り組みの実際について説明していく。今後、医療の場へのさらなる普及に貢献していきたいと考える。

## ■ ドメスティック・バイオレンス (Domestic Violence: DV)

### 1) DV とは

DV とは、「パートナー等の親密な関係にある（あった）カップルの間でふるわれる暴力」のことである。夫や恋人など親密な男性から女性への暴力だけとは限らないが、ほとんどの場合、女性が被害者となっている。そのためここでは、男性から女性への DV に絞って述べる。

DV は世界的な問題であるが、日本においても深刻な被害の実態が明らかにされている。内閣府の調査によると成人女性の 4 人に 1 人は夫や恋人から身体的な暴力の経験があり、6 人に 1 人が精神的な嫌がらせや恐怖を感じるような脅迫、性行為の強要といった性暴力も同様の割合と報告されている<sup>3)</sup>。周産期において

は、少なくとも妊婦の約 5 % に DV が認められ<sup>4)</sup>、母親の心身社会的な健康、低出生体重児、胎児ジストレスなど胎児への影響があり、子どもの虐待との関係も指摘されている。

2001 年に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が施行され、DV 防止法には、医療従事者を含め関係者への研修の実施、被害者発見時の通報と被害者への情報提供について規定されている。DV の早期発見と介入、そして支援機関との連携は、医療の果たすべき重要な役割であるといえる。

### 2) DV のスクリーニング

女性に DV があるかどうかをスクリーニングするためには、適切なスクリーニングツールの使用が勧められる。様々なスクリーニングツールが作成されているが、日本では、著者らが作成した女性に対する暴力スクリーニング尺度 (Violence Against Women Screen: VAWS) がある<sup>5)</sup>。

女性に対する暴力スクリーニングは、7 項目の質問で構成されており、「よくある」、「たまにある」、「まったくない」の 3 つの選択肢から回答する。2 項目以上で「たまにある」または「よくある（「非常に難し

#### 性に対する暴力スクリーニング尺度：Violence Against Women Screen (片岡、2005)

No	項目			
1	あなたとパートナーの間でもめごとが起こったとき、話し合いで解決するのは難しいですか？	<input type="checkbox"/> 非常に難しい	<input type="checkbox"/> ある程度難しい	<input type="checkbox"/> 難しくない
2	あなたは、パートナーのやることや言うことを怖いと感じることはありますか？	<input type="checkbox"/> よくある	<input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> まったくない
3	あなたのパートナーは、気に入らないことがあるとあなたを大きな声で怒鳴ったりすることがありますか？	<input type="checkbox"/> よくある	<input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> まったくない
4	あなたのパートナーは、気に入らないことがあると怒って壁をたたいたり、物を投げたりすることがありますか？	<input type="checkbox"/> よくある	<input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> まったくない
5	あなたは、気が進まないのにパートナーから性的な行為を強いられることがありますか？	<input type="checkbox"/> よくある	<input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> まったくない
6	あなたのパートナーは、あなたをたたき、強く押す、腕をぐいっと引っ張るなど強引にふるまうことがありますか？	<input type="checkbox"/> よくある	<input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> まったくない
7	あなたのパートナーは、あなたを殴る、けるなどの暴力を振るうことがありますか？	<input type="checkbox"/> よくある	<input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> まったくない

い] または「ある程度難しい」) が選ばれると DV リスク陽性と判定する。

簡便で、短時間で行うことができるため、実施は比較的容易である。さらに、臨床での適用を促進するため、女性に対する暴力スクリーニング尺度の短縮版 (No2, No4, No5, No6) が作成され、現在信頼性および妥当性が検討されている。

DV スクリーニングの実例を紹介しよう。A 病院の産科病棟では、出産後の全産婦に対し DV スクリーニングを行っている。スクリーニングツールは女性に対する暴力スクリーニング尺度を使用している。

病棟では、指導票 (産後 1 日目に、退院指導などの基礎情報として全産婦に記入を依頼している) があつた。指導票には、同居家族、性格、信仰、喫煙、飲酒、職業、母乳育児の希望、退院の希望、育児・産後の心配事という内容が含まれていたが、その最後の部分に、女性に対する暴力スクリーニング尺度の質問項目を加えた。

既存の指導票に DV スクリーニングの質問項目を加えることで、スタッフの負担を最小限にすることができた。女性の安全を守るため、指導票の扱いについては細心の注意を払っている。担当のスタッフが、褥婦の部屋に持っていき記入を依頼し、記入し終わったら直接スタッフに渡してもらうようにした。記入を依頼するのは、面会時などは避けた。電子カルテに DV スクリーニングの結果を入力するが、そこには注意書きとして「開示は本人のみ」としている。

### 3) DV にあっている女性への支援

DV スクリーニングが陽性の場合、個別に話をする機会を持つが、その際女性の気持ちをよく聴き、その方の意思・選択を尊重する。つまり、まず医療者に DV のことを話してもよい、または話したいと思っているかを確認する必要がある。その際、医療者は女性と子どもの安全と健康を心配していること、必要時はいつでもサポートを受けられること、暴力は決して許されないこと、女性の責任ではないことなどを伝える。

女性と子どもの安全のアセスメントでは、「最近暴力がエスカレートした」、「凶器で脅された」、「首をしめるなど生命に危険を感じるような暴力があつた」、「子どもへの暴力があつた」場合は、生命への危険性が高いと考えられる。



女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

安全性を査定しながら、その状況にあわせて DV に関する情報を提供し、女性がどうしたいと思っているかにそつた支援を行っていく。

女性がパートナーから離れないという選択をした場合、女性と子どもの安全を守るため、セイフティ・プランをたてる。セイフティ・プランをたてることは、安全を守るということだけではなく、女性が「自分で行動できる」、「対策がたてられる」という自己効力感を実感することにもつながる。セイフティ・プランには、以下のような内容が含まれる。

#### セイフティ・プラン

- 大切なもの (お金、保険証、運転免許証、印鑑、自宅の鍵、着替え、おむつなど) をバックに入れてまとめておく。
- 危険な状態になったときに、逃げる経路を考慮しておく
- 避難場所を確保しておく

被害にあっている女性に利用できる社会資源を紹介するために、DV の冊子と日本語・英語のリソースカードを準備しておくといふ。リソースカードを名刺大で作成しているのは、靴の中や手帳・財布などにそつと入れておくためである。

DV に関する資料を持っていると、だれかに DV のことを相談したことがパートナーに知れる可能性があり、暴力が悪化することがある。資料を渡すときにも、財布の中身を見られることはあるか、資料を持つことが危険ではないかなどを必ず確認する。

配偶者暴力相談支援センターは、DV 被害者支援の中心的な機関である。DV 防止法には、もし医療者が

DV 被害者を発見したら、センターか警察に通報することが規定されている。女性の意思を確認した上で、通報することが望ましい。センターには、病院から連絡することが可能であるが（連携機関として）、ご本人から直接相談していただくこともできる。確実に支援機関へとつないでいくために、病院そして本人、両者からアクセスするとよい。

フォローアップが必要と判断した場合は、1 か月健診などで再度面接の機会をつくり、経過を把握する。どんなときも今後の生活を決めるのは女性本人であることを念頭におき、女性の意思を尊重する関わりを重視する。

## ■ 子どもの虐待

### 1) 子どもの虐待の実態

現在、児童虐待は大きな社会問題となっており、日本では 2004 年に児童虐待防止法・児童福祉法の改正が行われ、地域での取り組みが始まった。しかし、現在も児童虐待による深刻な事例は後を立たず、児童相談所における児童虐待対応件数は年々増加傾向にある。また被虐待経験は、自己効力感の低下やうつ病の発症等、社会生活に障害を生み、生涯にわたって健康に深刻な影響を与える。

虐待の早期発見と予防的介入は、医療者に課せられた重要な役割と考えられる。児童虐待死亡事例のうち月齢 3 か月未満が過半数を占め、虐待期間が 1 年以上の例は 4 割にも及ぶことから<sup>6)</sup>、早期に虐待リスクを査定する必要がある。

### 2) 子どもの虐待リスクアセスメント

「できるだけ早期に」とは言っても、どの時期が適切だろうか。「できるだけ早期に」を優先すると妊娠期も可能性があるが、女性とゆっくり話せること、有用なリソースを準備できることから産褥期は適切な時期であると考えられている。

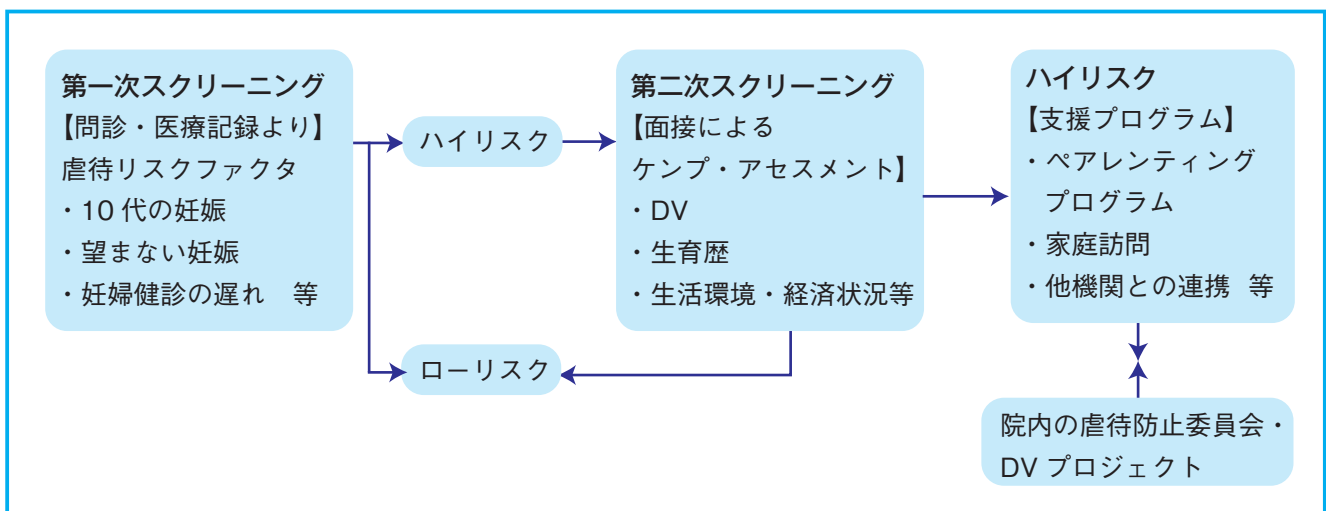
米国の国家的な虐待に対する取組みである Healthy Families America Initiative<sup>7)</sup> の活動をここで紹介しよう。Healthy Families America Initiative は、両親（ここでは褥婦と夫・パートナー）の子どもへの虐待リスクをアセスメントし、早期に集中的な家庭訪問やペアレンティングクラスへの参加を促すことで虐待の発生を予防するのが目的である。虐待のスクリーニングは、問診・診療記録の情報からリスクを査定する第一次スクリーニングとハイリスク者の絞込みをする第二次スクリーニングの 2 段階で実施される。

第一次スクリーニングは、褥婦と夫・パートナーの虐待のリスクファクタの有無、婚姻状態（未婚/既婚）、パートナーの職業、収入、住所の有無、電話の有無、学歴、薬物使用の既往、精神疾患の既往、人工妊娠中絶の既往、養子縁組の希望、夫婦・家族間の問題、うつ病の既往を医療記録から把握し、リスクスクリーニングを行う。

これらのリスクファクタがありハイリスクと判定された場合は、第二次スクリーニングを実施する。

第二次スクリーニングは、ケンブ・アセスメントというインタビュー方式で行うアセスメントツールが用いられている。

そのインタビュー内容には、10 の領域があり、





その項目は、以下の通りである。

【両親の生育歴と子ども時代の環境】

【生活様式と精神保健】

【親としての経験】

【日常の問題解決技術と支援組織】

【現在のストレス源】

【怒りの処理の技術】

【乳幼児の発達段階の知識と期待】

【しつけの計画】

【新しい赤ちゃんに対する想い】

【アタッチメントとボンディング】<sup>注1</sup>

このケンプ・アセスメントの評価基準は、各項目「0点」「5点」「10点」の3段階（合計0～100点）でスコア化する。得点が高いほどリスクが高いとみなし、25点以上で虐待のハイリスクと判定する。

ここでは、ケンプ・アセスメントを用いた虐待スクリーニングの実例を紹介しよう。

まず医療記録から虐待リスクファクタを含む基礎情報に関する情報収集を行った後、ケンプ・アセスメントに基づいて1対1のインタビューにて虐待リスクスクリーニングを実施する。

実施は、出産後の体力回復を考慮し原則として産褥3～4日目、帝王切開後は産褥5～6日目とし、インタビューは、産婦のスケジュールに合わせて時間を設定する。実施場所は、プライバシーを守れる環境を確保するため個室がよい。

インタビュー終了後、インタビュー実施者は別室にて、ケンプ・アセスメントの質問に対する回答から評価基準を使用してスコア化し、リスク判定を行った。その結果、10%がハイリスクと判定された。ハイリスク者は、医療記録にてなんらかの問題があげられていた場合もあったが、正確な情報が把握されていなかった。

### 3) 子どもの虐待ハイリスク者への支援

リスク判定にて虐待ハイリスクの産婦には、フォローアップができる担当者を決める。担当者は、カウンセラーや医療ソーシャルワーカー、看護管理者など院内のリソースを活用して退院後を視野に入れ適切な支援を受けられるよう体制を整える。さらに院内の協働者とともに、地域の支援機関と連携していく。

家庭訪問、親業を学ぶペアレンティングクラス、心

理カウンセリングなど虐待ハイリスクの母親への支援は、有効性が明らかにされているものが多くある。Healthy Families America Initiative では、ケンプ・アセスメントで25点以上であった場合に、集中的な家庭訪問を実施している。日本では、虐待のアセスメントを兼ねて全戸訪問が行われているが、産褥期にリスクアセスメントを行いハイリスク者には、丁寧な家庭訪問やプログラムを展開するという方略も効果的かつ効率的ではないかと思われる。

また医療施設には、すべての産婦が利用できるように、資料（地域子育て相談窓口、夜間診療情報、児童手当等補助金、地域子育てマップ、子ども虐待防止センター電話相談窓口情報等）や周辺地域で受けられる社会資源について情報提供を準備しておくといよい。

#### 【引用文献】

- 1) 信田さよ子 (2002)、DV と虐待 「家族の暴力」に援助者ができること、医学書院。
- 2) WHO (2013). Responding to intimate partner violence and sexual violence against women WHO clinical and policy guidelines.
- 3) 内閣府男女共同参画局 (2012)、男女間における暴力に関する調査報告書。  
<http://www.gender.go.jp/e-vaw/chousa/images/pdf/h23danjokan-gaiyo.pdf>
- 4) 片岡弥恵子、八重ゆかり、江藤宏美、堀内成子 (2005)、妊娠期におけるドメスティック・バイオレンス、日本公衆衛生雑誌、52 巻 9 号、785-795。
- 5) 片岡弥恵子 (2005)、女性に対する暴力スクリーニング尺度の開発、日本看護科学会誌、25 巻 3 号、51-60。
- 6) 厚生労働省 (2008)、子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について社会保障審議会児童部会「児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会」第1～4次報告。
- 7) Joseph Galano (2007). The Healthy Families America Initiative: Integrating Research, heory and Practice, Haworth Pr Inc.

#### 【注】

注1 赤ちゃんへの愛着・受入状況のこと。

#### 【参考文献】

- 片岡弥恵子、長坂桂子、井上梢、堀井泉、瀧真弓 (2008)、医療施設における DV 防止に向けての取り組み、助産雑誌、62 巻 3 号、236-242。
- 新井香里 (2009)、周産期における児童虐待の早期発見に向けたケンプ・アセスメントの実用の可能性、2008 年度聖路加看護大学大学院課題研究。

早乙女先生の「女は女として生まれぬ」、納得です。では「男は男として生まれる」のだろうかと考えてしまいました。と同時に「そもそも『男』とはどのような存在なのか？」という疑問を改めて突き付けられた思いです。こんなことを考えている医者がある一方で「たたなくなったら男はおしまい」という信念で、ひたすら勃起させることに心血を注いでいる泌尿器科医も少なくありません。もちろん ED(勃起不全: Erectile Dysfunction) を克服したいと希望する患者さんに対して適切な医療を提供することは医師として当然のことですが、その男性の相手の思いも絡むことなので対応は慎重にしなければなりません。

ED一つを取り上げても、男の性というのは非常に複雑な問題をはらんでいるのですが、今の時代ほど、男がちゃんと育たない、育てない時代になってしまっていると感じるのは私だけでしょうか。

\* \*

#### 男の前にオスあり

この連載でも「男子」や「男」という言葉を使っていますが、生物学的にいうと男女は雄雌、オスとメスです。動物の性別の話をする際には当たり前のようにオスやメスと言い、小さい時はかわいいという思いを込めて「男の子」や「女の子」といった表現を使います。しかし、逆に人間の場合は男をオス、女をメスと呼ぼうものならそれこそ侮蔑的な印象を持ってしまいます。すなわち、「男」や「女」という呼称はその人を人と人との間に生きる社会的な存在と認めた表現と言えます。逆にいうと、「オス」が「男の子」や「男」になるためには、社会的な存在として認められるための能力を獲得する必要があります。

\* \*

#### そもそも「雄(オス)」とは?

思春期の男子が引き起こす様々な問題を考え続ける中で、「そもそも『雄(オス)』とは?」、「そもそも『雌(メス)』とは?」というスライド(表1、2)を

使って説明していました。このような発想に至ったのは、前号でも書かせていただいたように「男が変わった」と思う場面が多々あったからです。

「包茎」という言葉を知らない中高生が増えていきます。こう言うと「それは嘘でしょう」から「岩室さん独特のからかい方ですね」とまで言われる始末です。しかし、かつては検索エンジンで「包茎」を検索すると1,000万件を超えていたヒット数が、最近では600万件にまで減少してきました。これは仲間同士で性の話をしなくなった結果と見ています。

なぜそうなるかと言えば、そもそも男は目的もなく群れません。だからこそゲームやネットという一人でも楽しめる環境があれば、それにどっぷりつかってしまいます。またネットでの書き込みは顕示欲の塊やプライドの生き物としての自尊心、自己肯定感を満たしてくれます。その一方で自分の無知を仲間知られたくないため「『包茎』って何?」と聞けないのです。それに対して、本能的に群れる習性があるメスは、群れる中から幸せや役割を見つけ、現実を受け入れる力を自然な形で身に付けていきます。

表1 そもそも「雄(オス)」とは?

群れない習性  
関係性に学べない、一人で犯罪  
欲望(性欲・顕示欲・独占欲、等々)の塊(かたまり)  
名刺と役割がないと人前に出られず  
「プライド」の生き物  
人に言われても変われず、おだてられないといじける

表2 そもそも「雌(メス)」とは?

群れる習性  
周りに合わせ、関係性に学び、癒される  
欲望(食欲・愛情欲・物欲、等々)がオスと異なる  
日常の中に幸せと役割を見つけ  
「プライド」より「本能」と「あきらめ」の生き物  
「まあいいか」と現実を受け入れ続ける

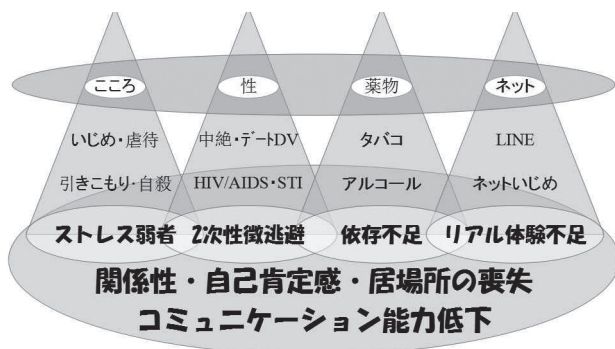
\* \*

### 問題の根底は何？

若者たちがとんでもない犯罪を繰り返し起こしていますが、世間は「原因を明らかにし、再発予防につなげる」という一見妥当な思考パターンになっています。しかし、公衆衛生、特に長年「予防」に取り組んできた立場からすると、この「原因と結果」というシンプルな発想は、逆に予防を困難にしていることを繰り返し経験してきました。

健康づくりでは「IECで生きる力を」という考え方を重視しています。Information（情報）をどれだけEducation（教育）しても、その知識を生かすにはCommunicationを通して課題を実感したり、仲間からのプレッシャーが自然と得られたりする、関わり・繋がり・支え合う環境・居場所が重要です。逆に根底が揺らいでいると様々な問題に直面します（図1）。

図1 若者の問題の根底は？



\* \*

### 何でこうなったんだよ

事件の加害者になってしまった若者が「何でこうなったんだよ」と言ってきたら、あなただったらどう返答しますか。

正しい知識を持っていなかったから。思いやりの気持ちが強かったから。命の大切さを知らなかったから。教師が、大人が早く気付かなかったから。このような他人意識の評論家的発想をしていないでしょうか。一方で、親の顔が見たい、もっと早くサインに気づけなかったのかといった発想になるのも、根本原因である社会に蔓延している、誰もが直面している「関係性の喪失」や「コミュニケーション能力の低下」といったリスクに気づいていないからです。

\* \*

### どうして人を殺してはいけないのか

「当たり前のことを聞くな」とお怒りであれば大変ありがたいです。ぜひご自身がどうして人を殺してはいけないのかを身に着けるだけではなく、今も実践できているのかを考えてみてください。おそらく明確な答えにたどり着くことは困難でしょう。「(人を殺してはいけないという常識を身に着けた)結果と、(身に着けるに至った)原因・要因」は決して一対一の関係ではありません。しかし、一度とんでもない事件が起こると、多く人はなぜか原因探しに走り、「あの人が悪い」と他人意識で自分を納得させてしまいます。

\* \*

### オスから男に育てる環境整備が急務

オスは自分一人で行動しつつ、自分のプライドが満たされる環境を自ら作り上げようとします。一方で集団でいじめを行ったり、暴力等による束縛を繰り返したりするのは、自分自身の居場所づくりを必死に行っているだけともれます。ゲームやネットにはまって孤立するのは、関係性を構築するコミュニケーション能力不足を克服しなくても、孤立感にさいなまれなくて済む環境が提供されているともれます。本能に任せた反社会的行動、孤立的行動をしてしまうのが「オス」だとすれば、「男」とは自らの本能をコントロールし、社会性を身に着けることができるように育った状態と言えないでしょうか。

\* \*

### 関係性で「オス」が「男」に育つ

ココロを病むとは、その人の物事の常識や思慮分別が、他の人と異なること。

こう教えてくださったのが精神科医の春日武彦先生でした。この言葉から、結果的にココロを病んでしまった人と何とか病まずにすんだ人の生活や関係性の違いが見えます。何が正しいか、何が悪いかわ、反社会的な行為かは法律が教えてくれるのではなく、いろんな人の間で生活していく中で、気づき、気づかされ、自らをコントロールする術を身に着けるものようです。

で、そもそも群れることが、関係性に学ぶことが苦手な「オス」をどう育てれば「男」にできるか。皆さんと一緒に悩み続けたいと思います。



# 性教育の歴史を尋ねる

戦後・純潔教育編

茂木輝順

## 第24回 文部省純潔教育分科審議会の活動(その2)

もてぎ てるのり  
女子栄養大学大学院栄養学  
研究科保健学専攻博士後期  
課程修了、博士(保健学)

今回から、純潔教育分科審議会が1950年に発表した『男女の交際と礼儀』(以下、本書)について述べたいと思います。前回触れたように、伊藤秀吉が純潔教育分科審議会の活動内容を5点あげていましたが、このうち、本書は「三、男女交際の礼儀、基準設置」の成果にあたります。第18回で触れたように、同タイトルの小冊子をガントレット恒子が執筆する計画もあったようですが、本書は、純潔教育分科審議会によって編纂され、1950年11月に非売品版が発行されています。伊藤は「この(引用者注:純潔教育分科審議会の活動の)うち特に時日を要し、努力を重ねたのは男女交際の礼儀の基準についてであつた<sup>(1)</sup>」と述べていて、純潔教育分科審議会がかなりの労力を投じて本書を作成したことがわかります。

本書は純潔教育委員会時代の比較的早い段階から構想されていたことも想像できます。1947年10月の「純潔教育委員会委員に対する問合せ」<sup>(2)</sup>では6番目の質問で、「純潔教育と男女交際及男女共学について」委員の意見を尋ねています。

ただ、本書の作成が本格化したのはもう少し後のようです。少々長くなりますが、『婦人公論』1951年1月号に「原案ができるまで」という本書の作成過程がわかる記述があるので、それを以下に引用します。「文部省が昨年の秋『男女の交際と礼儀』(原名)について着手したのは、教育界、婦人団体、青年団体、PTA等の具体的な要望・建言によるものであった。編纂にはそれまで『純潔教育基本要綱』『性教育のあり方』等をつくった、文部省社会教育審議会純潔教育分科審議会が当たった。まず青年団約四百五十名、教育者百五十名、婦人団体・一般社会人百七十名、学生六十名、省内職員三十名等、約七百名の意見をもとにし、それに古来の礼法や欧米のマナー、エチケットを参照した。決定までに起草小委員会の会合は十七回、審議会総会十四回にわたり、小委員会作成の原案はつくり直し七回、訂正九回を重ね、ちょうど一年間を費した。」<sup>(3)</sup>

そして、本書は、「正しい洋式食事と服装」と「男

女の交際と礼儀』を活用するために」の付録がついて「純潔教育シリーズ4」(印刷庁発行)として1950年12月15日に、付録がなく本体のみの『新礼法読本男女の交際と礼儀』(日本教育新聞発行)が1950年12月20日に出版されます。

すでに斎藤<sup>(4)</sup>によって明らかにされていることですが、本書はかなり広く流通したことがうかがえます。「純潔教育シリーズ4」は、初版から4か月半後の1951年4月2日には第6刷が発行されており、かなりのスピードで増刷が進んでいます。『新礼法読本男女の交際と礼儀』も1953年5月25日に第7版が発行されています。さらに、本書は少なくとも3つの雑誌に転載されています。『婦人公論』(中央公論社発行)1951年1月号の特別付録として、また、『教育技術』(小学館発行)の1951年2月号・4月号・5月号に分割されて、『社会人』(社会人社発行)の1951年3月号から7月号にも分割されて、掲載されています。加えて、本書の解説本も複数出版されています<sup>(5)</sup>。このように、本書はさまざまな媒体でひろく提供されていたことがわかります。

また、先の話になりますが、この『男女の交際と礼儀』は、1959年3月に文部省社会教育局による改訂版が作成されています。日本性教育協会の資料室には、1951年1月25日発行の「純潔教育シリーズ4」と、改訂版にあたる『男女の交際と礼儀』(全日本社会教育連合会発行)が所蔵されていますが、後者は1971年1月10日発行です。改訂版も含めると、20年以上にわたり本書が発行され続けていたこととなります。

(注)

- (1) 伊藤秀吉「純潔教育分科審議会」(各審議会、分科審議会のうごきII)『文部時報』877号帝国地方行政学会1950年p.37
- (2) 「純潔教育委員会委員に対する問合せ回答綴」(『性暴力問題資料集成』第1巻 不二出版2004年収録)
- (3) 「男女交際のモラルとエチケット」『婦人公論』37巻1号中央公論社1951年p.215
- (4) 斎藤光「『男女の交際と礼儀』の基礎研究」『京都精華大学紀要』33号2007年
- (5) 前田偉男『男女の交際と礼儀解説』明治図書出版1950年12月、伊藤秀吉・大塚二郎・金子貞子・山室民子・山本杉・望月衛『文部省版男女の交際と礼儀』目黒書店1951年1月、村岡花子・寺本慧達・山室民子・大塚二郎・安藤画一・山本杉・溝口義方・中村利枝・望月衛・ガントレット恒子『男女の交際と礼儀解説現代礼法』新制教育研究会1951年3月。



# BOOK GUIDE

## 今月のブックガイド

### 男しか行けない場所＝男社会

20代前半、私は旅行書を制作する編集プロダクションに勤めていたが、ある時、地方在住の旅行作家に頼まれ、某自治体のキャンペーンガールのアルバイトをすることになった。当日、控え室に行くと私以外にもたくさんのキャンペーンガールがそれぞれ衣装に身を包み談笑していたのだが、異様だったのが、担当者と思しき自治体の広報課の男。ソファに寝そべり、挨拶をしても、こちらも見なければ名前も聞いてこない。本当にびっくりした。それまで地方に取材に行った時などに接する広報担当の自治体の人とは、まず名刺を交換して挨拶し、その後は親切に観光名所を案内してもらったものだが、あれはあくまで私が取材に来た人だったからなのだろう。キャンペーンガールをやるような若い女のことは対等な人間扱いしなくてよいと考えているのだと実感させられた。

本書『男しか行けない場所に女が行ってきました』は、“エロ本の取材現場を「女目線」で覗いて気づいた「男社会」の真実。”と帯にあるように、エロ本の仕事をしてきた著者が取材で赴いた男性向けの風俗店などで見聞きし感じたことを記した本だ。第1章「男しか行けない場所」には、ドール専門風俗店、密着型理髪店、パンチラ喫茶、オナニークラブ等々、男の欲望を満たすさまざまな形態の店が紹介されている。私は、竜宮城風ガールズバーと、おっぱいパブの項を読んだ際に、ふと15年ぐらい前の上記出来事を思い出した。

竜宮城風ガールズバーに知人男性3名とともに潜入した著者。ビキニ姿の女の子が一人ずつ、10分くらいでかわるがわる席に着く。何人目かの女の子が着席したとたん著者たちが注文した大皿のビーフストロガノフを引き寄せて断りもなくジャバジャバと食べ始めた。著者はこれが腑に落ちず、店を出た後、同行の3



### 男しか行けない場所に 女が行ってきました

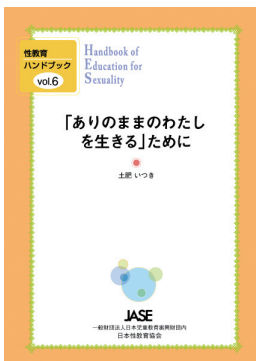
田房永子著  
イースト・プレス  
定価 1200円＋税

人の男たちに「あれはいいのか」と問う。が、男たちの反応は「そんなことあったっけ?」。〈私はその感覚について考え込んでしまった。(中略)自分が男たち3人のように「え? 食べてたっけ?」と思うなんてことがあるとしたら、その相手(従業員)は人間ではなく犬とか猫とかの動物でしかあり得ないと思う。〉

おっぱいパブの項では、男たちは「仕事の人とおっぱいパブに行った」と言うことが多いと書かれている。2軒目、3軒目のカラオケ感覚だそうだ。〈つまり「おっぱいが揉みたい」わけではなく、男同士のコミュニケーションの場として機能している。言い換えれば、男は同性とのコミュニケーションを図るためにわざわざ女の体を必要とするということである。〉

男たちはなぜ、時に平気で女を人間扱いしないことができるのか。自分自身のささやかな体験と併せ、考え込まずにはいられなかった。

第2章「男のための場所で誘う男たち」ではスワッピングパーティーやテレクラなどで著者が誘われた体験が記されている。喫茶店でコーヒーカップの取っ手を女性器に見立てて指マンするセックスカウンセラーの男など強烈な人物が登場して笑えるけどコワイ。第3章「男しか行けない場所で働く女たち」は風俗店勤務の女性やAV女優に著者が取材した際の体験談だ。裸で働く女たちへの尊敬と軽蔑の思いが率直に綴られている。そして、エロ本編集者やAV監督など仕事仲間である男たちと女である著者の関わりを書いた第4章「エロ本を作る男たちと私」、電車の中での男たちの態度やテレビの中に感じる違和を書いた第5章「実は男しか行けない場所」まですべて読むと、著者がこの本で「男しか行けない場所」と表現したのは、単に男性向け風俗店を指すのではなく、男ばかりが堂々とくつろぎ、女を人間扱いしなくてもいい場所がたくさんある、この社会そのもののことではないか、と気づく。(日本性科学連合事務局長 今福貴子)



## 性教育ハンドブック Vol.6

**好評発売中!**

### 『「ありのままのわたしを生きる」ために』

土肥いつき 著

◆A5判：86頁、頒価500円

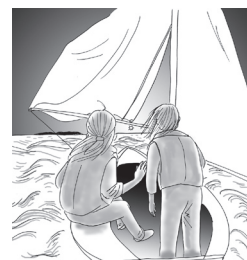
『現代性教育研究ジャーナル』に3年間連載された、「性別違和」である作者が悩みや葛藤の中で紡いできたありのままを語る自叙伝です。両親や友達との出会いの中で小さなトゲのような違和感を心の小さな箱の中にしまい込み、教員生活を送り、Jさんと出会い、そしてSRSに向かい、女性として生きるわたしの航海を描いた新刊です。

#### 主な内容

港にて(自分史の試み…) / 船出のとき(小さなトゲのような思い…) / 帆をあげる(教員生活のはじまり…) / 舵を切る(「身体改造」開始…) / 嵐の中で / かくすかに見えた航路 / 新たな旅へ

#### 著者プロフィール

1985年より京都府立高校教員。セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク副代表、トランスジェンダー生徒交流会世話人、まんまるの会(関西医科大学附属病院ジェンダークリニック受診者の会)世話人代表など。映画『coming out story』に出演。



#### 既刊〈性教育ハンドブック〉

☆性教育ハンドブック Vol.5 『21世紀の課題=今こそ、エイズを考える』池上千寿子著 A5判・68頁500円

☆性教育ハンドブック Vol.4 『性教育の歴史を尋ねる～戦前編～』茂木輝順著 A5判・92頁500円

※送料：1冊215円、2～3冊300円、4冊～6冊350円。

◆JASEホームページ <http://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html> からお申し込みいただけます。

または、Email [info\\_jase@faje.or.jp](mailto:info_jase@faje.or.jp)

TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478

## JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

### 資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約5万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です (tel 03-6801-9307)。貸出業務は行っておりません。

【開室日・時間】月～金曜日 10:30～17:30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※この他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

### 資料室 利用方法

### 収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー(自然科学系、人文・社会学系)、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際(海外団体資料・海外学術誌)、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>